

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

●保護者等数 46人

●回収数 46枚(回収率 100%)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	① 子どもの活動スペースが十分に確保されているか	39	7			どんぐりでは社会性とコミュニケーションスキルの向上をねらった活動が主なので、その目的に必要なスペースとしては十分であり、集中しやすい広さだと考えています。身体を大きく動かす活動の時はグループ分けをし安全に配慮して行っています。広い場所でダイナミックな遊びをする時は公園や広場などを利用しています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	46				
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	44	1		1	バリアフリー、構造化された環境となっています。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	46				
適切な 支援の 提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	46				
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	46				
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	46				
	⑧ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	46				
	⑨ 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	16	8	13	9	どんぐりに通っている子どもの全員が、家庭生活や幼稚園、保育園などで様々な子どもと関わる機会を持っているため、あえて設定はしていませんが、公園や公共の場で地域の子どものと関わって遊ぶことがあります。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	44	2			契約をする際に説明を行っています。丁寧に説明することを心がけています。
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	45			1	個別支援計画は、支援計画会議(毎週1回実施)にて、主治医、セラピスト、どんぐりスタッフ全員が参加し立てています。保護者に支援内容を説明したうえで保護者の意向を再度確認し、署名、押印していただきます。
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	41	3		2	ペアレントトレーニングは年に一度、8名程度1グループで行っています
	⑬ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	45			1	来所の度に保護者の方と顔を合わせ、その日の心身のコンディション等、得た情報をスタッフ全員で共有しています。またお迎えの時にどんぐりでの活動の内容、ねらい、子供の様子を伝えていきます。
	⑭ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	45			1	定期面談で半年に一回支援計画の見直し、中間評価を行い、子どもの成長と課題を保護者と確認・共有しています。その他に育児に関する助言、面談は必要に応じてその都度行っています。
	⑮ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	24	9	6	7	保護者同士の連携支援として、茶話会、勉強会や親子プログラム、クリスマス会等のイベントで、親子で交流する場を設けています。
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	46				保護者から相談や申入れがあった際は迅速かつ適切に対応しています。
	⑰ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	46				
	⑱ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	39	3		4	どんぐりだよりを季節ごとに出版しています。業務に関する自己評価の結果は、平成31年3月より公開します。
⑲ 個人情報の取扱いに十分注意されているか	44			2	個人情報の扱いは慎重に取り扱ってまいります。	
非常時等の対応	⑳ 緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	26	6	1	13	今後、周知、説明を丁寧にしていきます。
	㉑ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練等が実施されているか	26	5	1	14	訓練の方法、実施について、年度ごとに子どもの特性にあわせて計画していきます。
満足度	㉒ 子どもは通所を楽しみにしているか	43	2	1		
	㉓ 事業所の支援に満足しているか	46				

○ この「保護者等から事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			どんぐりでは社会性とコミュニケーションスキルの向上をねらった活動が主なので、その目的に必要なスペースとしては十分であり、集中しやすい広さだと考えています。身体を大きく動かす活動の時はグループ分けをし安全に配慮して行っています。広い場所でダイナミックな遊びをする時は公園や広場などを利用しています。
	② 職員の配置数は適切であるか	100%			
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%			バリアフリー、構造化された環境となっています。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	60%		40%	空調で外気を取り入れ、換気に気を付けています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			
	⑥ 保護者等向け評価票により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%			
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価票の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%			
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	60%		40%	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいない	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%			
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			連携しているクリニックでの評価を共有しています。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%			
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%			
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			
	⑮ 活動プログラムが固定化されないように工夫しているか	100%			
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	100%			
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%			
	⑲ 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%			
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%				

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		100%		
	㉑ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	40%		60%	子育て支援の関係者とは電話による連携を行っています。
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保険、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	100%			
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を行っているか	100%			
	㉔ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%			
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	60%		40%	
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%			
	㉗ 保育園や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		100%		どんぐりに通っている子どもの全員が、家庭生活や幼稚園、保育園などで様々な子どもと関わる機会を持っているため、あえて設定はしていませんが、公園や公共の場で地域の子どもと関わって遊ぶことがあります。
	㉘ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	100%			
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			
	㉚ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	100%			

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点、課題や改善すべき点など	
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			
	㉑	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%			個別支援計画は、支援計画会議(毎週1回実施)にて、主治医、セラピスト、どんぐりスタッフ全員が参加し立てています。保護者に支援内容を説明したうえで保護者の意向を再度確認し、署名、押印していただきます。
	㉒	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%			親子プログラム、イベントのほか、茶話会、勉強会を実施し、交流の場を設定しています
	㉔	子どもや保護者からの相談や申入れ等について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%			
	㉕	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			
	㉖	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	100%			
	㉗	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			
非常時等の対応	㉘	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		100%		
	㉙	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%			
	㉚	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			
	㉛	事前に、服薬や予防接種、てんかん発生等の子どもの状況を確認しているか	100%			
	㉜	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	20%		80%	医師の指示書がない場合でも、保護者から話を丁寧に聞き対応しています。
	㉝	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%			
	㉞	虐待を防止するため、職員の研修期間を確保する等、適切な対応をしているか	100%			
	㉟	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		100%		身体的拘束が必要な子は来所していない。やむを得ず身体的拘束が必要と判断した場合は、主治医、保護者に連絡し、指示、許可を得てから安全に最小限の時間で行う